



あとがき



恐縮ですが、私事を書かせていただきます。私が核データニュースの編集委員会に参加させていただいたのは、2007年3月からでした。私の役目は、炉物理側からの核データ関連情報を集めて、核データ分野の皆さんにお届けすることであつたと思います。以下は、核データニュースNo.91 (2008年10月号) に初めて書かせていただいた「あとがき」の一部です。

9 月の中旬に、炉物理国際会議PHYSOR2008 がスイスで開かれました。.....核データ研究者の参加が多かったのが印象的でした。昔は、核データ研究者は炉物理の会議には近寄らず、炉物理研究者は核データの会議には近寄らないことが多かったように思いますが、近年、特に新型炉開発の世界では、炉心の核設計の信頼性を確保し精度を向上させるためには、核データと炉物理が協力して研究開発を行わなければならないという認識が、米仏日を中心に定着しつつあります。この流れに歩調を合わせて、核データニュース編集委員会も、積極的に炉物理ネタの寄稿をお願いしています。

.....

50 年代の米国のPops に、"To know know know him, is to love love love him..." という歌詞がありました。隣の分野が何をやっているのか何を必要としているのか、まず関心を持つことから、分野間の協力関係が始まるのだと思います。核データニュースの記事が、そのきっかけのひとつになればいいなと思っています。

今も、この気持ちは変わっておりません。両分野の相互理解・交流がいつそう進展して、近年のV&VやUQへの要求を満たすことができることを深く期待しています。

(※なお、私は来年3月末で原子力機構から完全リタイアしますので、核データニュース編集委員も2月号で退任させていただきます。今回、このあとがきを書く機会を与えていただいたのは、柴田編集長のおはからいでした。ありがとうございました。)

2018年10月 石川

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

喜多尾 憲助 (元放医研)、山野 直樹 (RADONet)、石川 眞 (原子力機構)、
岩本 修 (原子力機構)、大塚 直彦 (IAEA)、金 政浩 (九大)、
小浦 寛之 (原子力機構)、中村 詔司 (原子力機構)、横山 賢治 (原子力機構)、
柴田 恵一 (委員長、原子力機構)